



管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

平成 30 年 8 月
財務省 中国財務局

(平成 30 年 8 月 7 日公表)

【お問い合わせ先】

中国財務局経済調査課(藤吉、藤田)

電話 (082) 221-9221(代表)
(082) 223-3038(直通)

Fax (082) 221-3845

<http://chugoku.mof.go.jp/>

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、平成30年7月豪雨前は、緩やかに回復していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある」

項目	前回（平成30年4月判断）	今回（平成30年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	平成30年7月豪雨前は、緩やかに回復していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	

（注）平成30年7月豪雨による地域への影響全体について現時点では十分に把握できないため、前回との基調比較は行っていない。

（判断の要点）

平成30年7月豪雨前は、個人消費は、ドラッグストア販売が好調で、コンビニエンスストア販売が堅調であるなど回復しつつあり、生産活動は、輸送機械や化学が増加しているなど緩やかに回復している。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と拡がっている。

現時点では、豪雨による生産活動などへの影響が懸念されるところであるが、まずは地域への影響全体について十分に把握する必要がある。

【各項目の判断】

（注）平成30年7月の各項目の判断は、前回4月判断以降、平成30年7月豪雨前までの期間で判断している。

項目	前回（平成30年4月判断）	今回（平成30年7月判断・豪雨前）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	→
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
雇用情勢	着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている	着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている	→
設備投資	平成29年度は前年度を上回る見込み	平成30年度は前年度を上回る見通し	→
企業収益	平成29年度は増益見込み	平成30年度は減益見通し	↘
企業の景況感	「下降」超に転じる	「下降」超幅は縮小	→
住宅建設	前年を上回る	前年を下回る	↘
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

【先行き】

先行きについては、豪雨による地域への影響全体について十分に把握した上で判断する必要がある。

2. 各論 (注) 平成30年7月の各項目の判断は、前回4月判断以降、平成30年7月豪雨前までの期間で判断している。

■ 個人消費 「回復しつつある」

ホームセンター販売は園芸用品や日用消耗品などが、百貨店販売は衣料品などが低調であり、前年を下回っている。ドラッグストア販売は食料品や化粧品が好調であり、コンビニエンスストア販売は食料品などが堅調で前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 4月後半から5月にかけて気温が上がらず、雨が多かったことから季節商品をはじめ園芸用品や塗料などの屋外資材が低調であった。(ホームセンター)
- 高級腕時計、宝飾品などの高額品や化粧品の動きは良いが、衣料品などが低調である。(百貨店)
- 冷凍食品やいわゆる「おかずの素」などの時短食品の売れ行きは良い。また、化粧品や漢方薬も好調である。(ドラッグストア)
- 天候不順の影響で気温が低い日が多く、アイスクリームや飲料品などの動きが鈍いものの、惣菜やカット野菜の売れ行きは変わらず好調である。(コンビニエンスストア)

■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送機械は、自動車が国内外の需要が堅調であることなどから、増加している。化学は、国内外において建材や包装材向けなど様々な分野で需要が堅調であり、増加している。電気機械は、スマートフォン向けの電子部品・デバイスで弱い動きがみられることから、減少している。はん用・生産用・業務用機械は、自動車関連の工作機械などが堅調であり、増加している。鉄鋼は、自動車や建材向けで堅調な動きとなっている。このように、生産活動は、全体では緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- 国内外のSUV需要が堅調であることや、改良車の投入効果などから、高操業が続いている。(自動車)
- 他工場から生産移管を受けた車種の生産が順調に推移しており、生産は大幅に増加している。(自動車)
- 国内都市部における再開発需要、インドや中国の旺盛なインフラ投資の需要を受けて、建材向けの樹脂原料がフル生産を続けている。(化学)
- スマートフォン関連の受注が減少しており、生産計画を下回る水準が続いている。(電気機械)
- 国内及び中国向けを中心に自動車や電子部品関連の工作機械の受注が好調であり、引き続きフル生産の状況が続いている。(生産用機械)
- 国内の自動車向けの薄板が好調であるほか、首都圏での再開発案件の需要の高まりから建材向けの形鋼も生産は増加している。また、国内外の造船向け厚板の受注が回復傾向にある。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている」

有効求人倍率(平成30年3~5月)は1.82倍と、全国の1.59倍と比べ高水準で推移しているほか、新規求人数も増加している。また、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている。

(参考) 広島県の賃金の動き

現金給与総額(名目賃金)は、平成30年4月で前年同月比▲2.0%と前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- 受注及び複雑な製品の取扱いの増加により、経験、技能を持った人材が不足している。その影響で、従業員の長時間労働や納期の遅延などの弊害が出ている。(自動車)
- 各社の人手不足を反映し、省力化・効率化を伴うシステム更新の改修依頼が増加しているが、既存人員では対応しきれないため、協力会社へお願いして業務をこなしている状況。(情報通信)
- テナントが新規出店の際に人を集められず開店を延期したり、出店を取りやめるケースが生じている。(小売)
- 専門的な知識を持った人材は、県内外で獲得競争が激しく、人材確保ができない状況にある。そのため、需要は増加しているものの、専門的知識や技術が必要な部署の人手が不足しており、受注を抑えなければならなくなっている。(鉄鋼)
- 技術職は、売り手市場を背景に、募集をかけても募集人員に達しない状況にある。そのため、事業拡大による人手不足の改善を図るため、作業の自動化(機械化)を一部導入するなどしている。(鉄鋼)

■ **設備投資** 「平成30年度は前年度を上回る見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成30年4~6月期

- 製造業では、鉄鋼などで減少するものの、自動車、化学などで増加することから、全体では前年度を上回る見通しとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便、宿泊・飲食サービスなどで減少するものの、電気・ガス・水道、小売などで増加することから、全体では前年度を上回る見通しとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 新型車に対応するための開発投資を行う。(自動車)
- 経年設備の更新を行う。(電気・ガス・水道)

■ **企業収益** 「平成30年度は減益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成30年4~6月期

- 製造業では、情報通信機械などで増益となるものの、化学などで減益となることから、全体では減益見通しとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、不動産、運輸・郵便などで増益となるものの、建設、娯楽などで減益となることから、全体では減益見通しとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超幅は縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成30年4~6月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、給与住宅が増加しているものの、分譲住宅、持家などが減少していることから、前年を下回っている。

■ **輸出** 「前年を上回る」

- 管内通関実績(円ベース)でみると、輸出は、自動車、鉄鋼などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、北米、アジアなどで増加している。
 なお、輸入は、原油及び粗油、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、アジアなどで増加している。

3. 各都道府県の総括判断

(注) 平成30年7月豪雨による地域への影響全体について現時点では十分に把握できないため、前回との基調比較は行っていない。

	前回(平成30年4月判断)	今回(平成30年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているとみられるが、平成30年7月豪雨による地域への影響について十分に把握する必要がある		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は着実に改善しており、人手不足感が継続している。現時点では、平成30年7月豪雨により生産活動や観光施設等への客足などに及ぼす影響が懸念されることから、地域に与える影響について十分に把握する必要がある。
島根県	持ち直している	平成30年7月豪雨前は、持ち直していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある		平成30年7月豪雨前は、個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動も総じてみれば回復しつつある。雇用情勢も改善しており、人手不足感が広がっている。現時点では、観光施設等への客足に影響が生じるなどしており、地域に与える影響全体を十分に把握する必要がある。
岡山県	緩やかに回復している	平成30年7月豪雨前は、緩やかに回復していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある		平成30年7月豪雨前は、個人消費は総じて回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は労働力需給が引き締まっている。現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある。
広島県	回復しつつある	平成30年7月豪雨前は、回復しつつあったが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある		平成30年7月豪雨前は、個人消費は回復しつつあり、生産活動も回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。現時点では、豪雨による生産活動などへの影響が懸念されることであるが、まずは地域への影響全体について十分に把握する必要がある。
山口県	緩やかに回復しつつある	平成30年7月豪雨前は、回復しつつあったが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある		平成30年7月豪雨前は、個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある。

管内経済情勢報告

(平成30年8月)

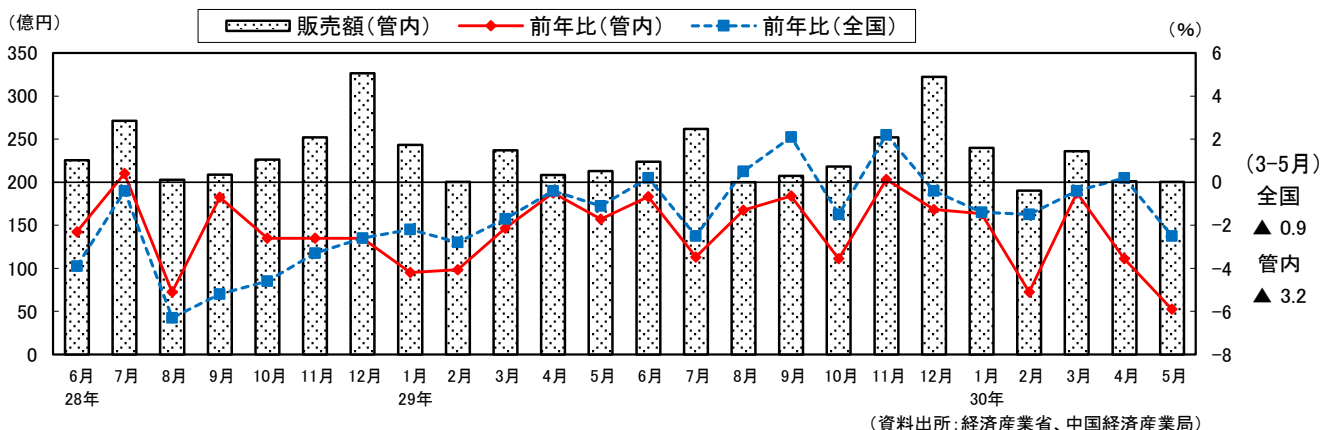
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	6
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

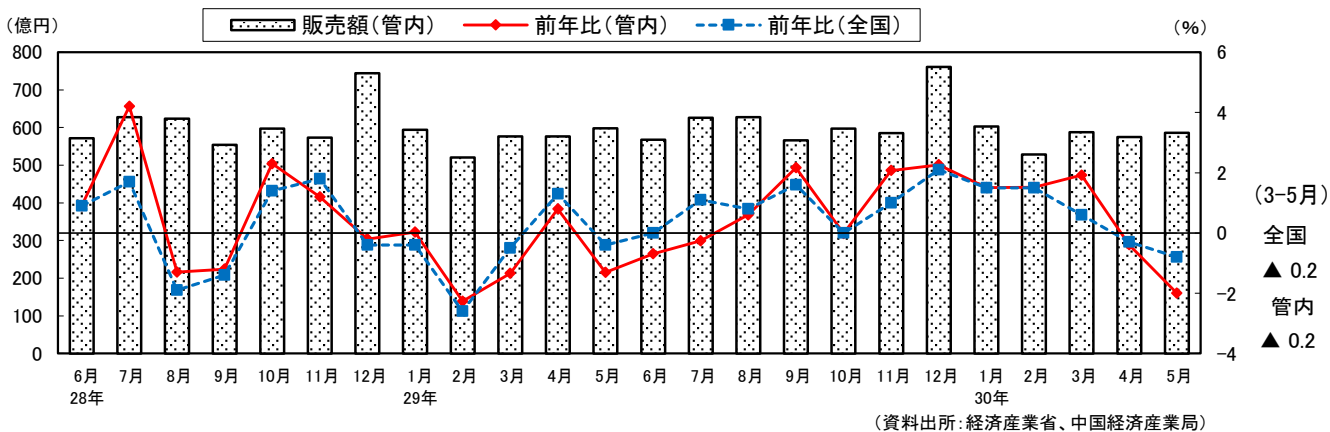
*上記の項目ごとに掲載しているグラフの枠外（右側）に記載している計数は、当該項目の状況を分析する上で参考とした前年比。（但し、生産活動は鉱工業生産指数及び前期比、雇用情勢は有効求人倍率を記入。）

1. 個人消費 回復しつつある

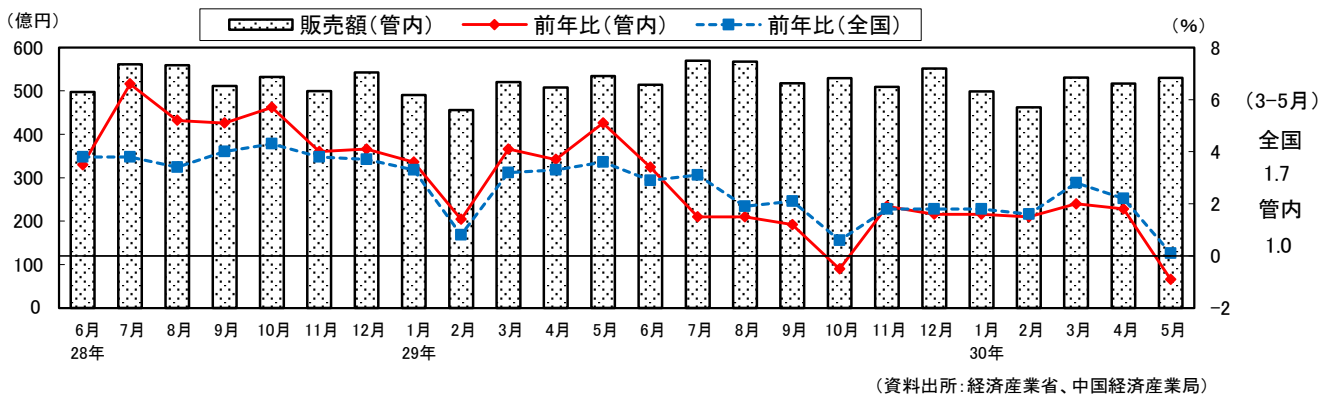
(1) 百貨店販売額(全店舗)



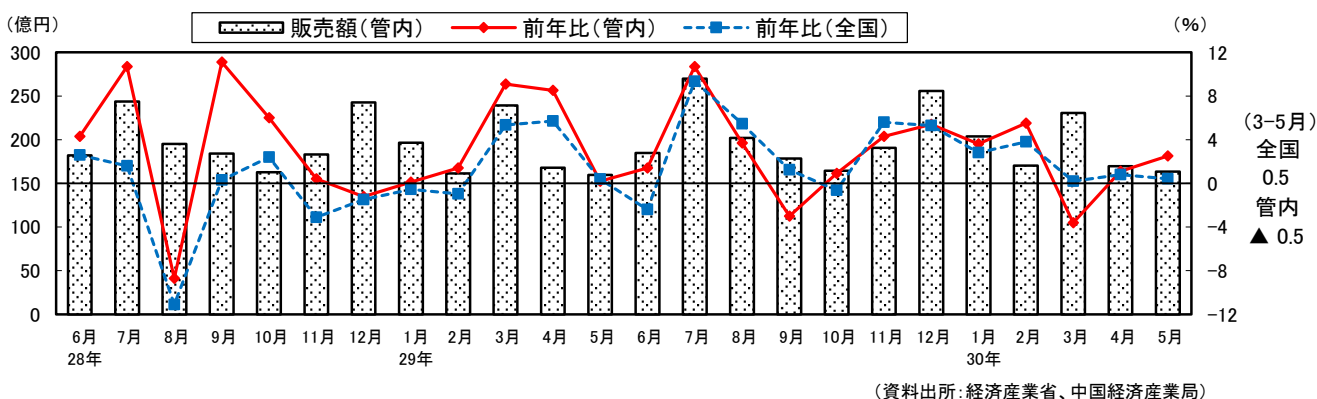
(2) スーパー販売額(全店舗)



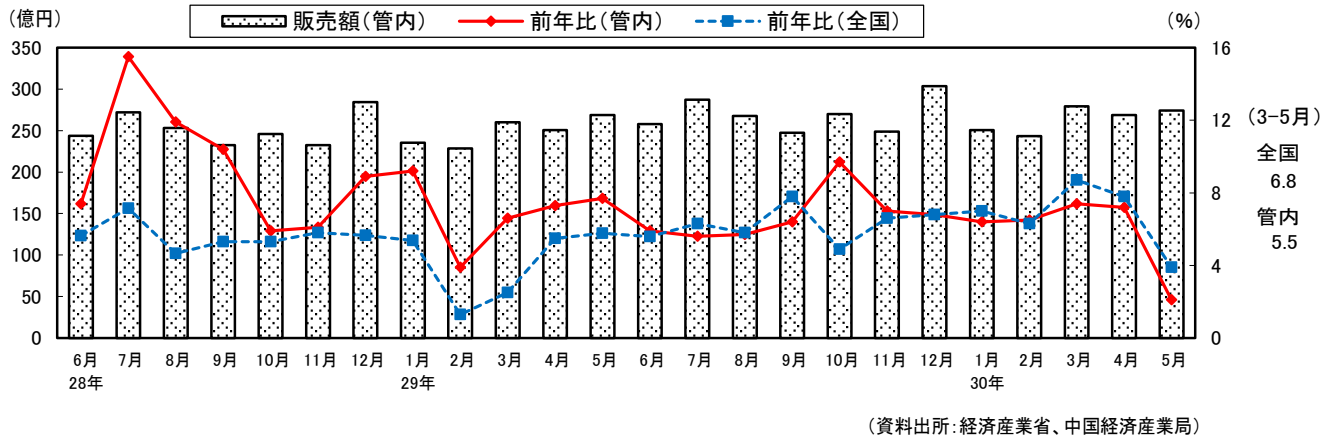
(3) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



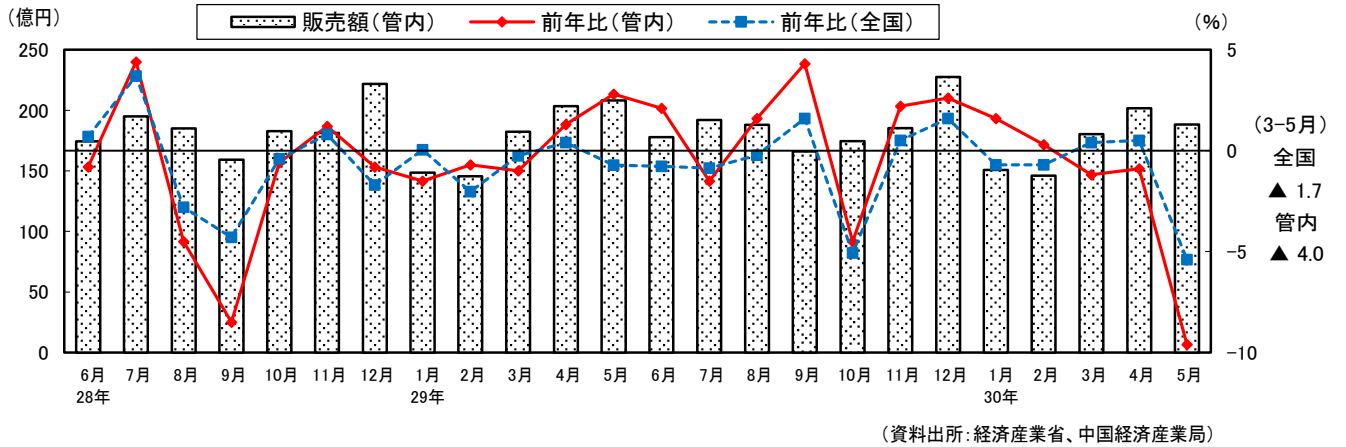
(4) 家電大型専門店販売額(全店舗)



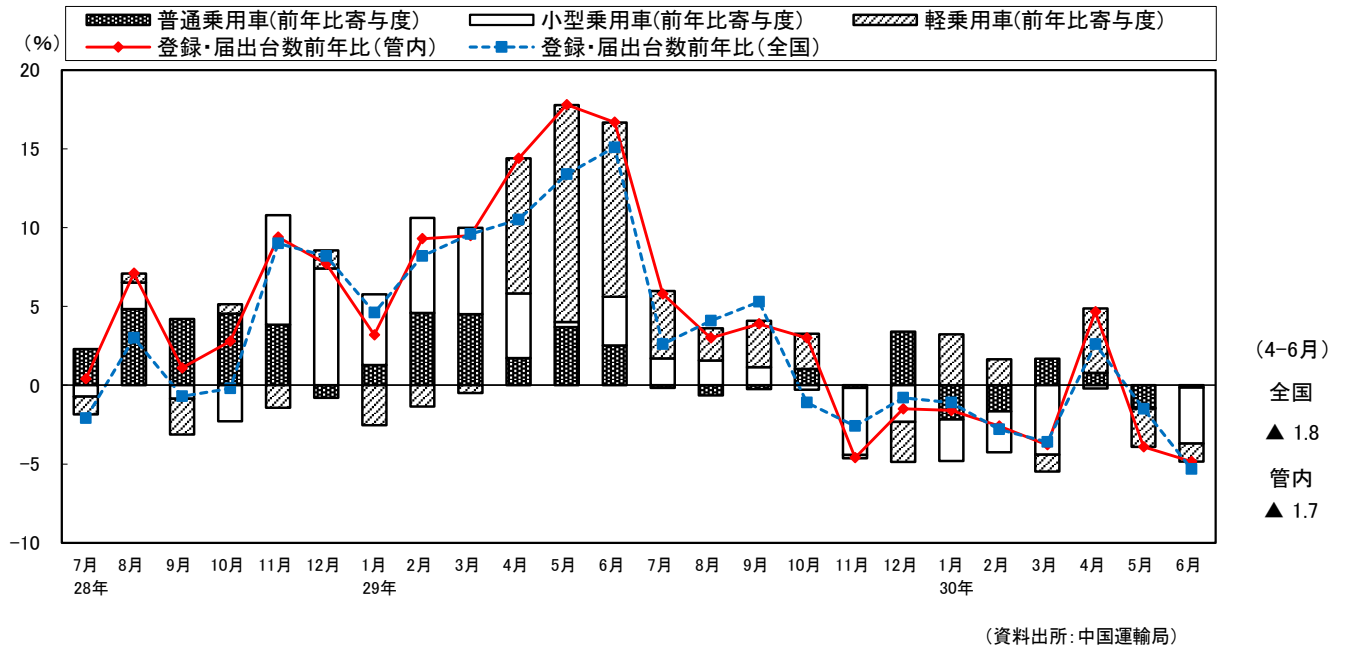
(5) ドラッグストア販売額(全店舗)



(6) ホームセンター販売額(全店舗)

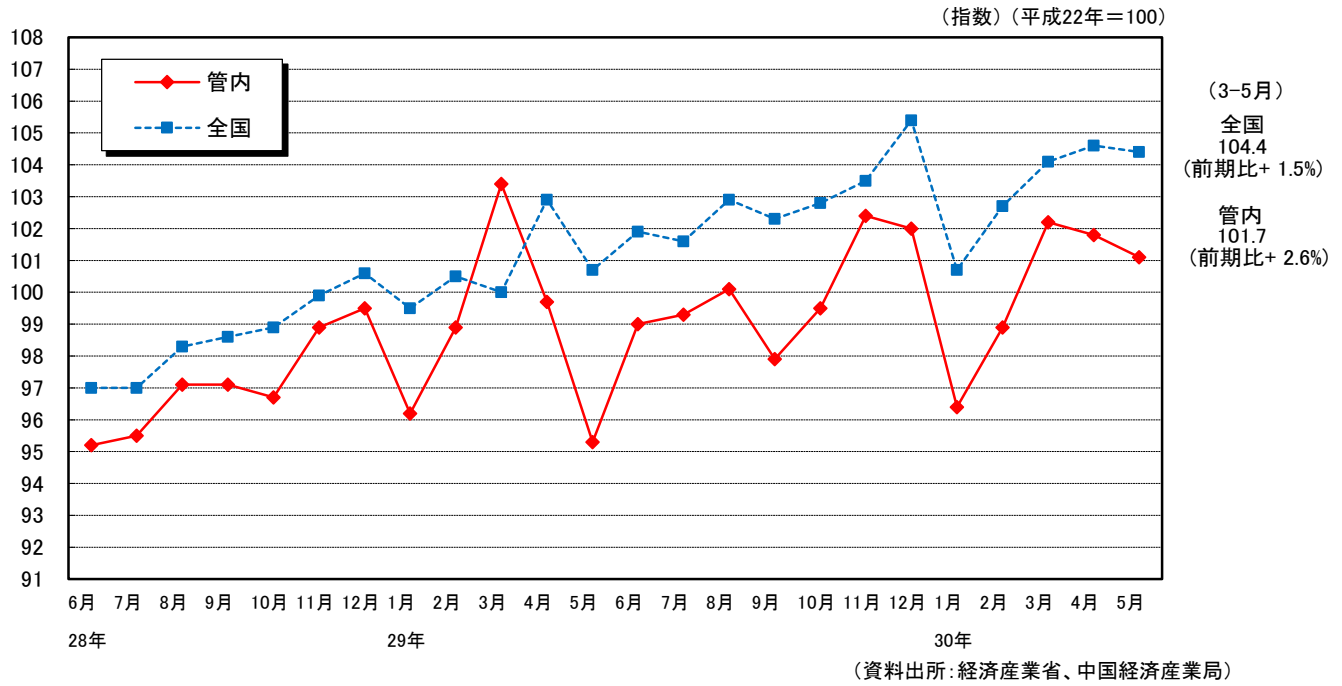


(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)

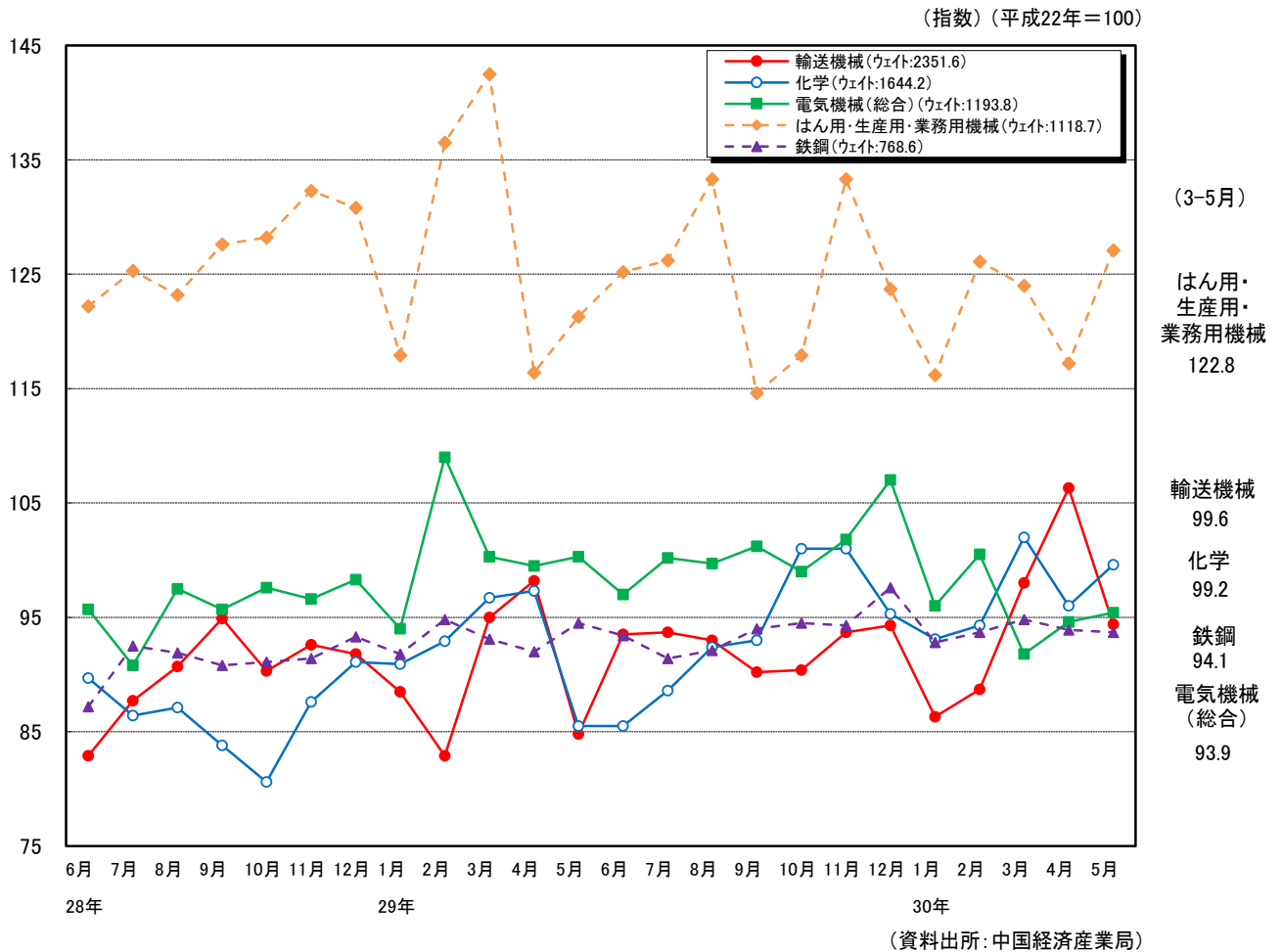


2. 生産活動 緩やかに回復している

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)

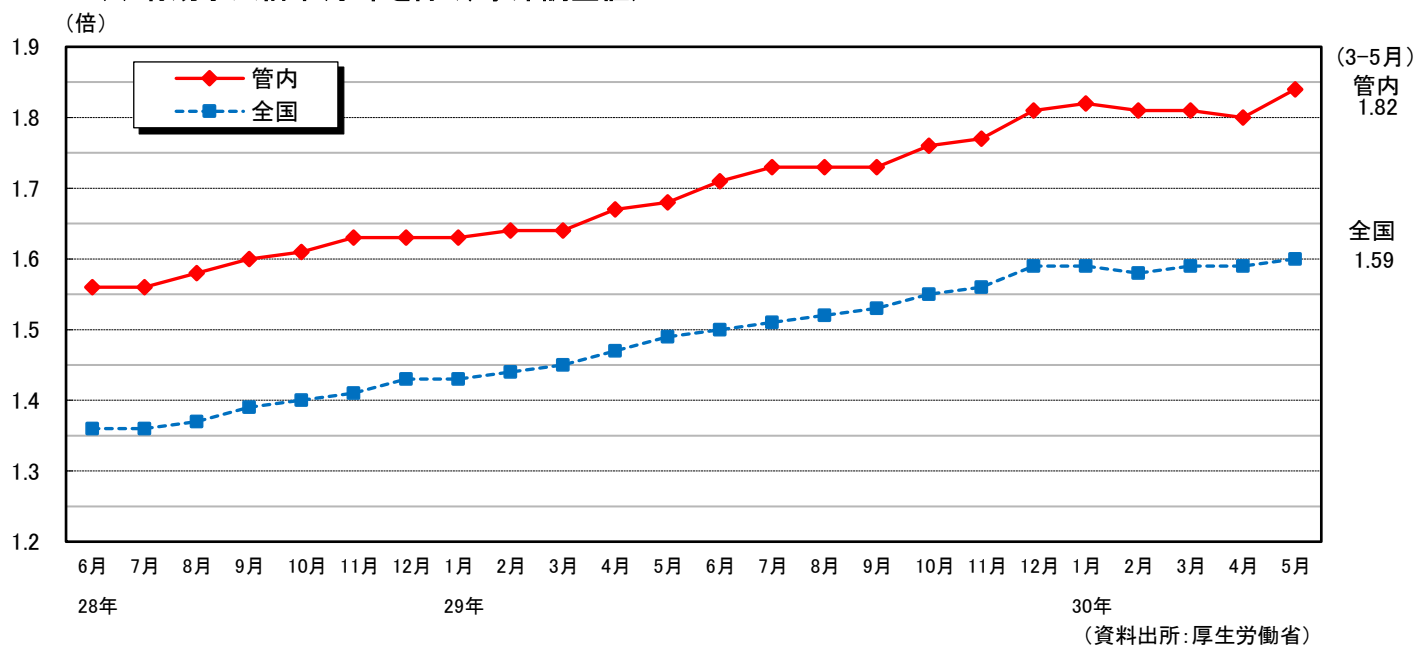


(2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)

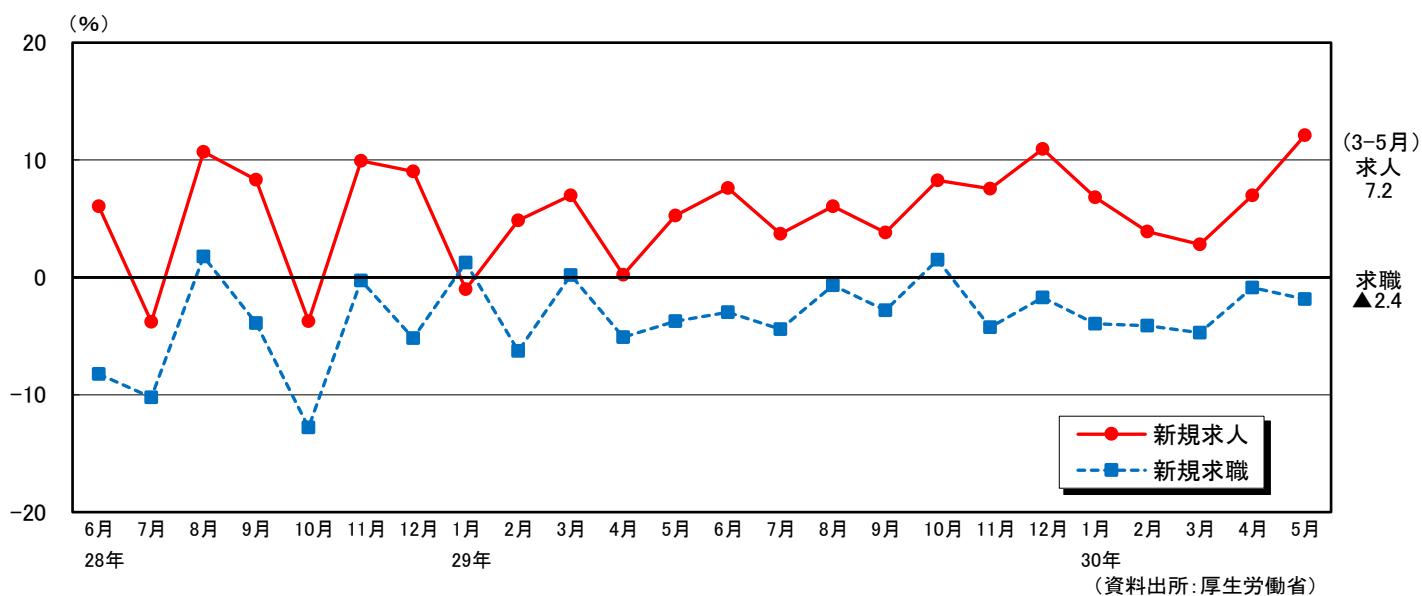


3. 雇用情勢 着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



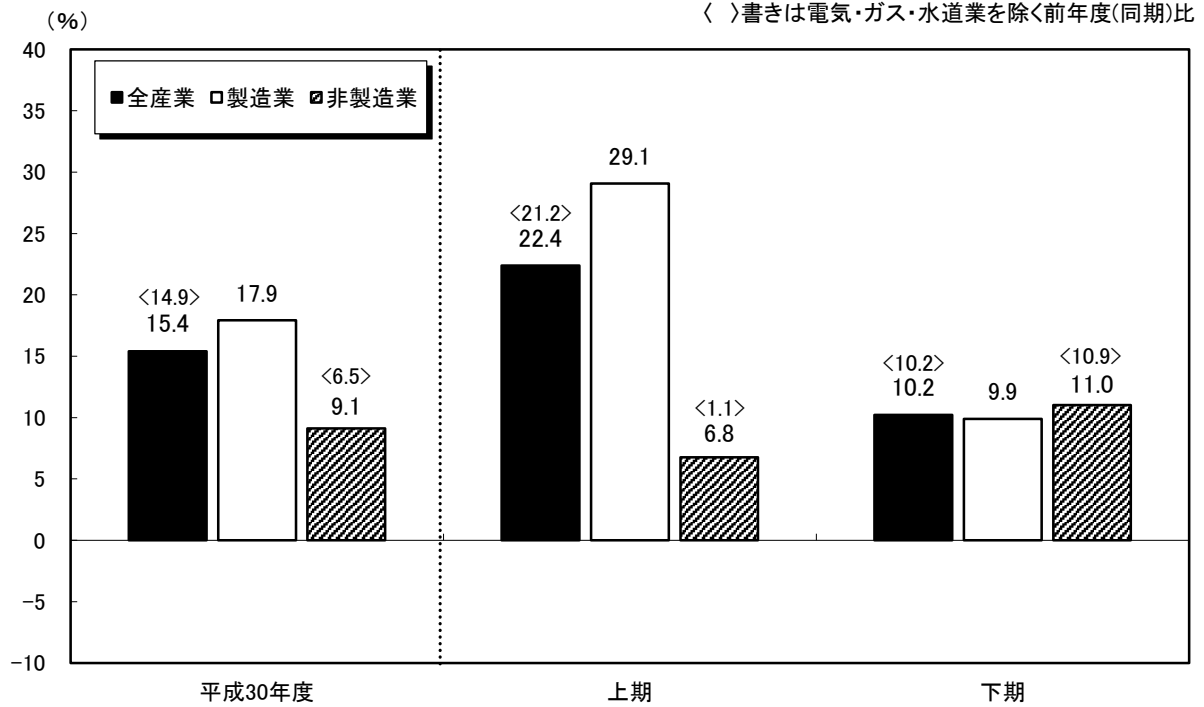
【参考】完全失業率(原数値)

区分	28年平均	29年平均	28.4~6	28.7~9	28.10~12	29.1~3	29.4~6	29.7~9	29.10~12	30.1~3
管内	2.8	2.5	2.9	3.2	2.3	2.5	2.7	2.6	2.3	2.1
全国	3.1	2.8	3.3	3.1	2.9	2.9	3.0	2.8	2.6	2.5

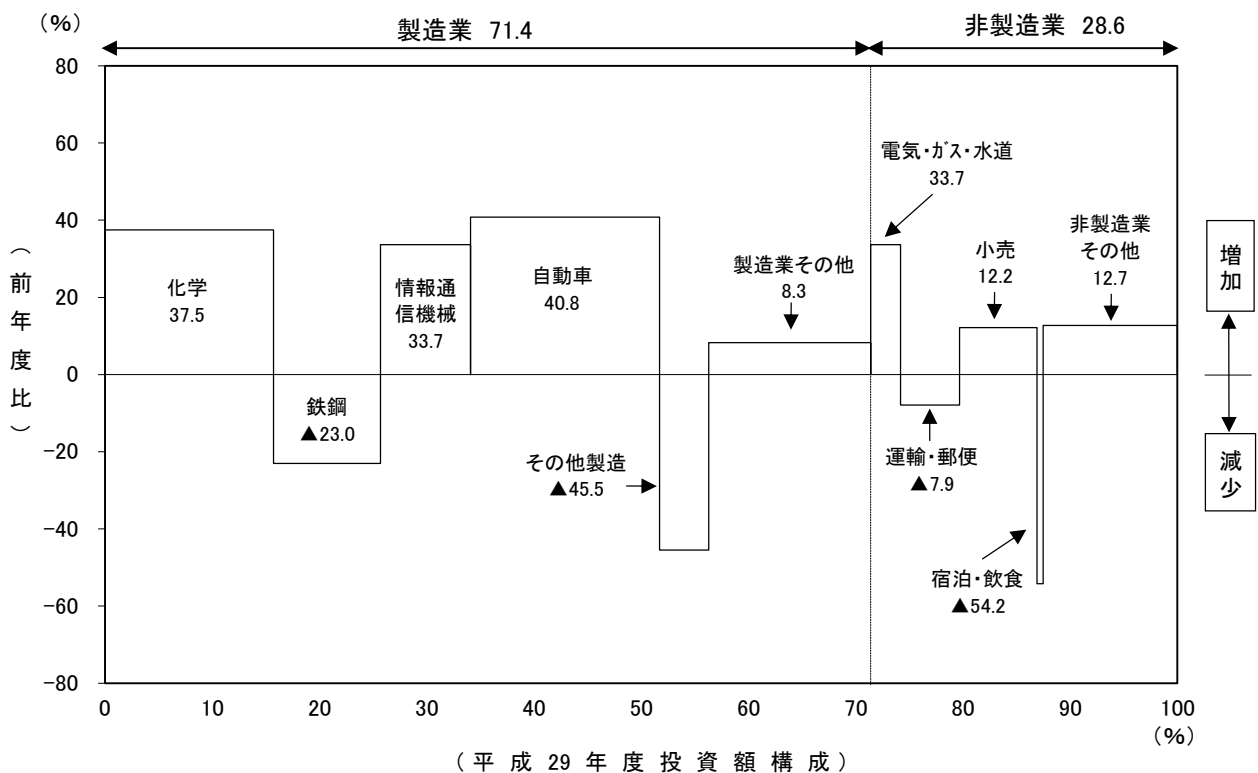
(資料出所:総務省)

4. 設備投資 平成30年度は前年度を上回る見通し

(1) 設備投資額(前年度(同期)比)

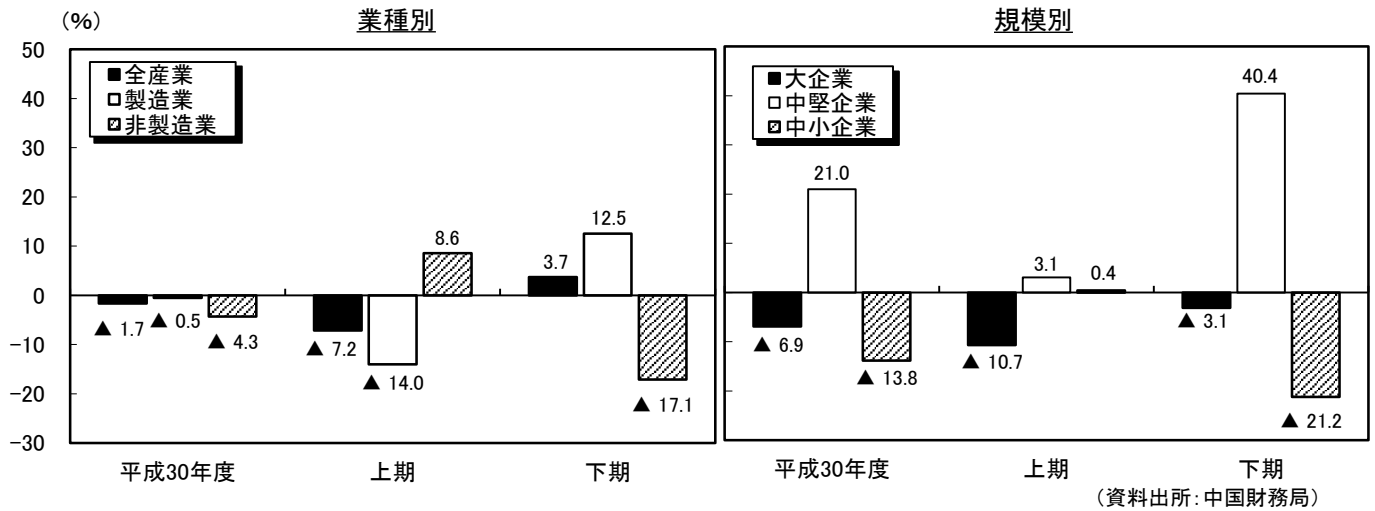


(2) 主要業種別(平成30年度)



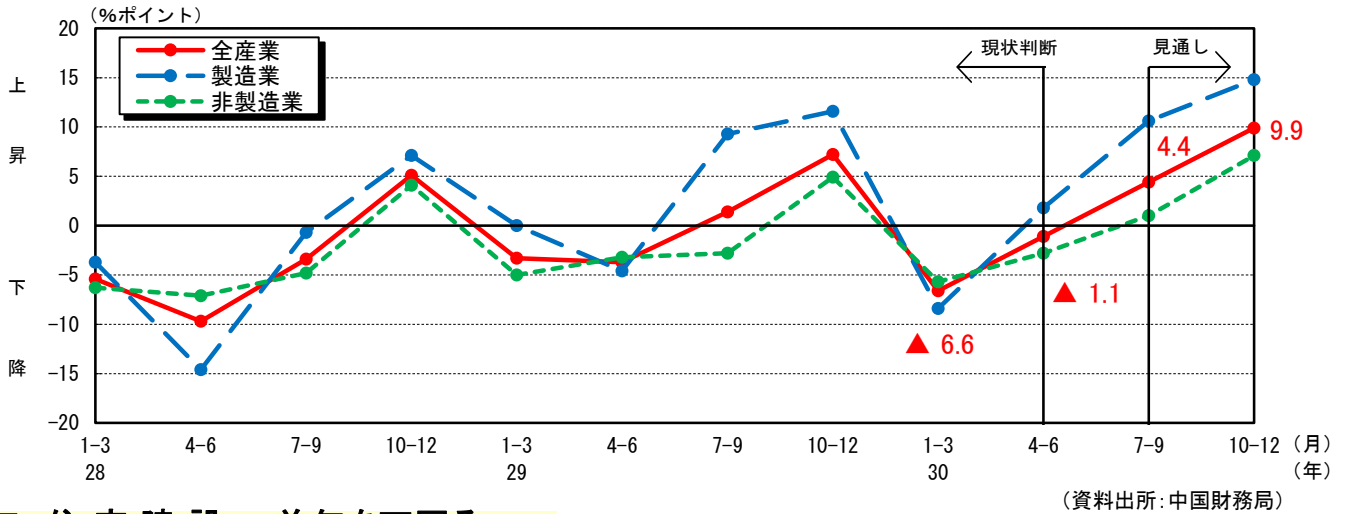
5. 企業収益 平成30年度は減益見通し

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く:前年度(同期)比)



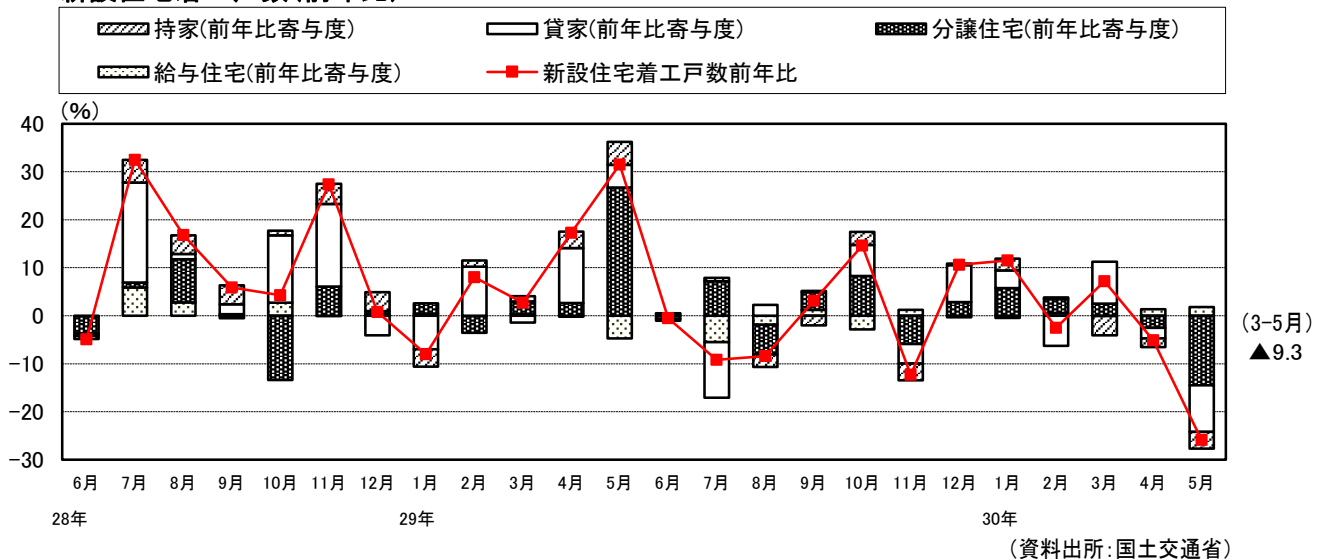
6. 企業の景況感 「下降」超幅は縮小

景況判断BSIの推移(原数値) (BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



7. 住宅建設 前年を下回る

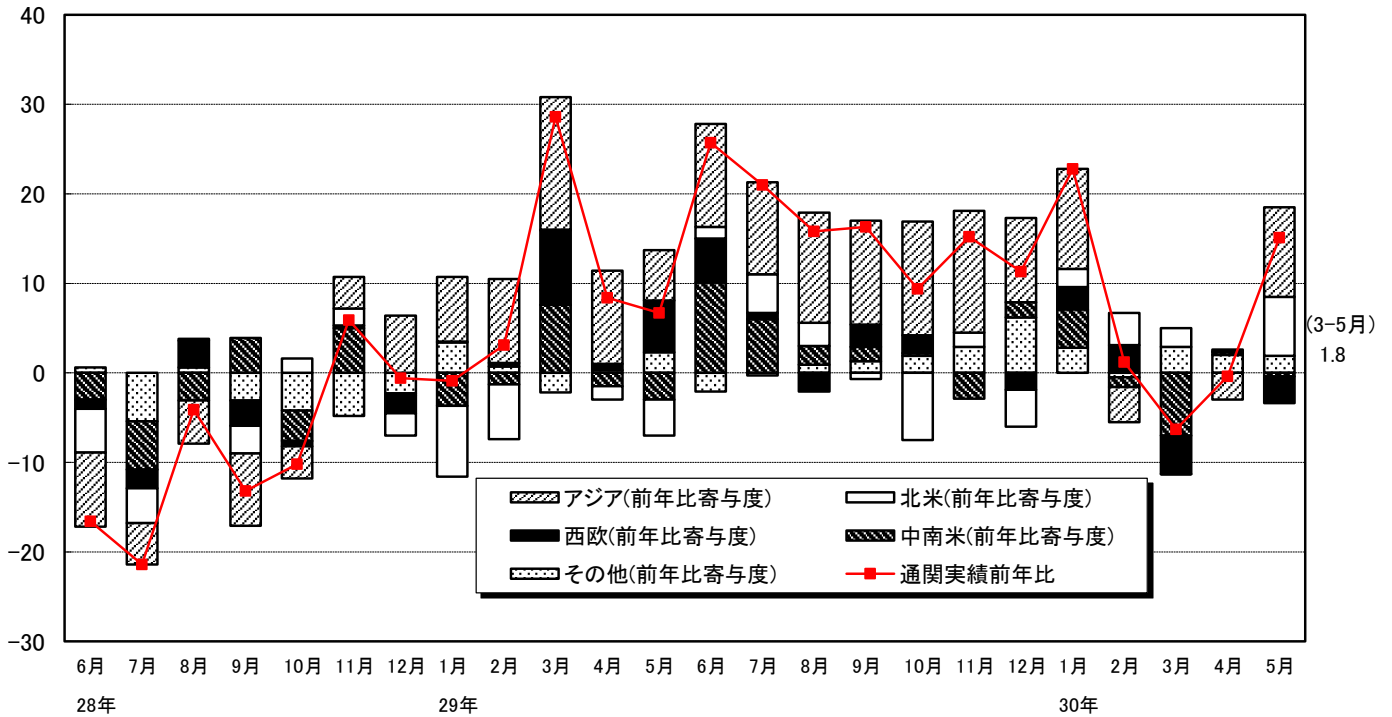
新設住宅着工戸数(前年比)



8. 輸出 前年を上回る

輸出(円ベース)

(%)



<参考>

輸入(円ベース)

(%)

